

三好達治『大阿蘇』を解説！

意味や表現技法・視点の移動まとめ

『大阿蘇（おおあそ）』 三好達治

雨の中に 馬がたっている
 一頭二頭子馬をまじえた馬の群れが 雨の中にたっている
 雨は蕭々と降っている
 馬は草をたべている
 尻尾も背中も鬣も ぐっしょりと濡れそぼって
 彼らは草をたべている
 草をたべている
 あるものはまた草もたべずに きょとんとしてうなじを垂れてたっている
 雨は降っている 蕭々と降っている
 山は煙をあげている
 中岳の頂きから うすら黄いろい 重っ苦しい噴煙が濛々とあがっている
 空いちめんの雨雲と
 やがてそれはけじめもなしにつづいている
 馬は草をたべている
 草千里浜のとある丘の
 雨に洗われた青草を 彼らはいっしんにたべている
 たべている
 彼らはそこにみんな静かにたっている
 ぐっしょりと雨に濡れて いつまでもひとつところに 彼らは静かに集まっている
 もしも百年が この一瞬の間にたったとしても 何の不思議もないだろう
 雨が降っている 雨が降っている
 雨は蕭々と降っている

この詩は、雨が静かに降り続く熊本県・阿蘇の雄大な大自然と、その中で草を食べる馬たちの様子を描いた作品だよ。



まるで映画のカメラが動くように景色が描かれ、見ていると一瞬が100年にも感じられるような、大きな時間的スケールが表現されているんだ。

三好達治『大阿蘇』の基本情報：「口語自由詩」と「叙景詩」

『大阿蘇』テスト対策ポイント

- ・ 作者は、昭和時代に活躍した代表的な詩人・三好達治
- ・ 詩の形式は「口語自由詩」（現代の話し言葉で書かれ、決まった型がない詩）
- ・ 内容の種類としては情景を描く「叙景詩」（＝自然の風景を描いた詩）と呼ばれる。
- ・ 反復法の表現技法が使われている（「草をたべている」「雨は降っている」などの繰り返し）。
- ・ 文末に「～ている」を繰り返すことで、今の状態が変わらずに続くような印象（持続・永続性（えいぞくせい：ずっと続くこと））を与える効果がある。
- ・ 蕭々（しょうしょう）と＝ものさびしく、静かに降り続く雨の様子。
- ・ 視点の移動（カメラワーク）
近景（きんけい：手前の景色）の馬たち → 遠景（えんけい：遠くの景色）の噴煙と雨雲
→ 近景の草千里浜の馬たち
- ・ 「けじめもなしに（境目もなく）」つづいているもの
重々（しげしげ）苦しい噴煙 + 空いちめんの雨雲
- ・ 主題（作者の伝えたいこと）は、「大自然の雄大さと、その中にある永遠のように感じられる悠久（＝果てしなく長い）時間の流れへの感動」と考えられる。

詩『大阿蘇』の形式：「口語自由詩」と「叙景詩」

作者の三好達治は、昭和時代に活躍した代表的な詩人の一人だよ。

この詩は、現代の私たちが普段使っている言葉（口語）で書かれ、5・7・5などの文字数の決まりがないため、詩の形式は「口語自由詩」となるよ。テストの基本事項なので確実に覚えよう。



	口語	文語
	現代の話しことば	昔の書きことば
自由詩 字数にきまりがない	口語自由詩 (口語 + 自由詩)	文語自由詩 (文語 + 自由詩)
定型詩 字数にきまりがある	口語定型詩 (口語 + 定型詩)	文語定型詩 (文語 + 定型詩)

詩の形式の見分け表

さらに、この詩にはもう一つ、テストでよく狙われる大切なキーワードがあるんだ。

叙景詩とは？

自然の風景や景色（＝情景）を客観的にありのままに描くことで、作者の深い感動を伝える詩のこと。

「大阿蘇」は自分の感情をストレートに言葉にする「叙情詩（じょじょうし）」ではなく、大自然の風景を描写した「叙景詩」にあたることがポイントだよ。

「大阿蘇」とは、熊本県の阿蘇に広がる、火山がつくった大きな地形と草原のことだよ。

世界最大級のカルデラ（火山の活動によってできた、とても大きなくぼ地）の中に、山々や広い草原が広がっていて、雄大でのびのびとした景色が見られる場所なんだ。

2. 【テスト頻出】『大阿蘇』の表現技法（反復法）とその効果

この詩の一番大きな特徴は、なんと言っても「同じ言葉の繰り返し」だよ。これを反復法と呼ぶよ。

反復法とは

同じ言葉やフレーズを何度も繰り返す（反復する）ことで、リズムを作ったり、印象を強く読者に訴えかけたりする表現技法のこと。



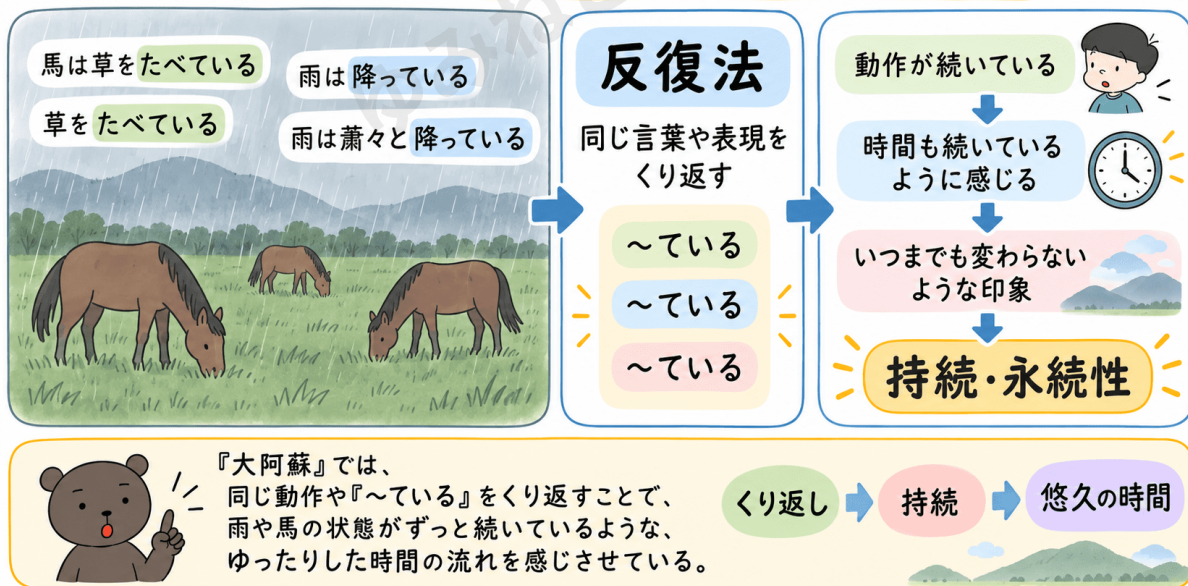
詩の中で「馬は草をたべている」「草をたべている」という動作や、「雨は降っている」「雨は蕭々（しょうしょう）と降っている」という情景が何度も繰り返されているね。

そして、最も注目すべきは文末がほとんど「～ている」で終わっていることなんだ！

22行あるうちの、ほとんどの行が「～ている」で終わってる！これってどういう効果があるのだろう？

この「～ている（動作の継続）」の反復こそが、「今の状態が、いつまでも変わらずに続くような印象（持続・永続性（えいぞくせい：ずっと続くこと））」を与えるための重要な仕掛けになっているんだよ。

くり返しがつくる『ゆったりした時間』



3. 【記述対策】なぜ「たべている」はひらがな？表記の工夫を読み解く

記述問題でよく問われるポイントに、「表記の工夫」があるよ。「降る」「濡れる」は漢字なのに、どうして馬の動作である「たべている」や、雨雲の「つづいている」は、あえてひらがなで表記されているんだろう？



漢字を使わずにひらがなに開いて（崩して）書くことには、次のような深い理由があると考えられるよ。

ひらがな表記の効果（解答例）

視覚的なやわらかさを持たせることで、馬たちが自然の中で静かに無心に過ごす様子や、時間がゆっくりと穏やかに流れる印象を表現するため。

ガツガツと「食べている」のではなく、大自然の一部に溶け込むようにただ静かに「たべている」。その穏やかさが、ひらがなの丸みを通して見事に表現されているね。

なぜ「たべている」はひらがな？

食べている

はっきり 力強い 動作が目立つ

たべている

やわらかい おだやか ゆっくり



ひらがな表記

↓

見た目がやわらかい

↓

馬の静かな様子

↓

時間がゆっくり流れる印象



やわらかい
感じだね！

「たべている」とひらがなで書くことで、
馬たちが自然の中で静かに穏やかに過ごしている様子や、
ゆったりした時間の流れを表している。

4. 読解のポイントⅠ：言葉の意味（解像度）と色彩の対比

この詩には、少し難しい言葉がいくつか登場するよ。意味をしっかりと理解して言葉の解像度を上げておこう。

- ・蕭々（しょうしょう）と ＝ ものさびしく、静かに降り続く雨の様子。（※激しく荒れ狂う「ざあざあ」とした雨ではないことに注意！）
- ・濛々（もうもう）と ＝ 煙などが濃く立ちこめている様子。



・けじめもなしに = 区別や境目（さかいめ）がないこと。詩の中では、山（中岳）の噴煙と空の雨雲が一つに溶け合っている様子を描いているよ。

色から感じる対比の美しさ

この詩の中には、色彩（色）の対比も隠されているよ。視覚に訴えかける「叙景詩」ならではの美しさを図解で整理してみよう。

対象物	描かれている色彩の印象
中岳の噴煙	うすら黄いろい、重っ苦しい色
空いちめんの雨雲	暗い色（黒や灰色）
草千里浜の草	青草（生命を感じさせる鮮やかな緑色）

「大阿蘇」の色彩の対比



雨雲や噴煙が広がる重たい景色の中に、雨に洗われた草の「青（緑色）」が鮮やかに浮かび上がって見えるように描かれているね。この色のコントラストが、自然のスケール感をより引き立てているんだ。

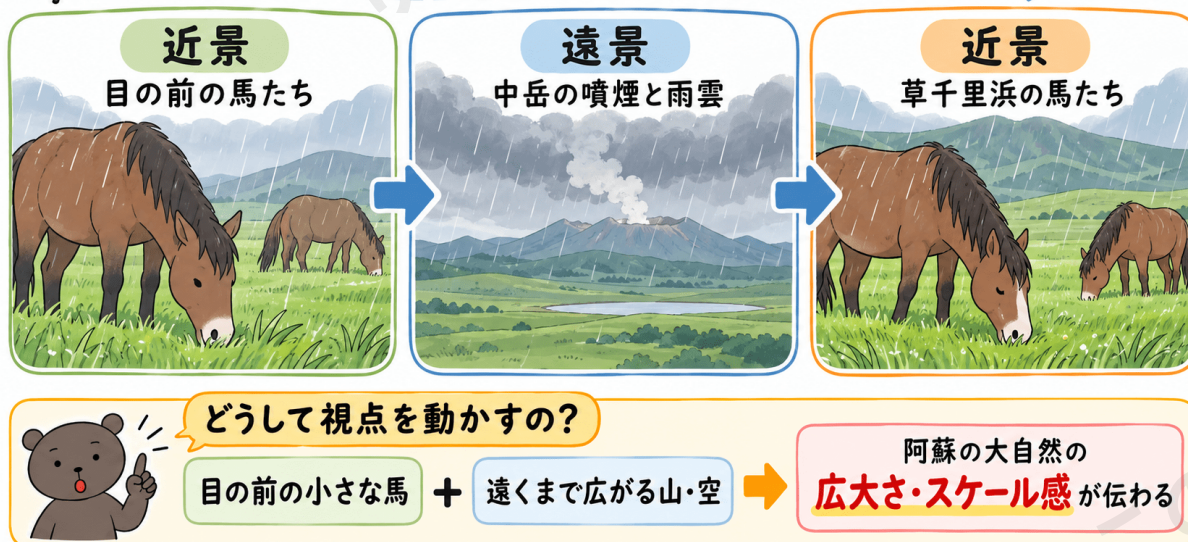


5. 『大阿蘇』読解：視点の移動（カメラワーク）を図解で解説

情景を描写する「叙景詩」の読解では、作者の目線（視点）がどこにあるかを追うことが最も重要なんだ。この詩はまるで映画のカメラのように視点が移動していくよ。

視点の移動（カメラ）	描かれている情景（対象）
【近景（きんけい：手前の景色）】	目の前にいる、雨の中で静かに草をたべる馬の群れ
【遠景（えんけい：遠くの景色）】	遠くに見える、中岳の噴煙と空いちめんの雨雲
【近景】	再び目の前へ。草千里浜の丘で青草をたべる馬の群れ

「大阿蘇」はカメラのように視点が動く！



近景と遠景を行き来させることによって、目の前の小さな馬たちの姿と、その後ろに広がる阿蘇の大自然の途方もない広大さが強く感じられるような工夫がされているんだね。

6. 『大阿蘇』の主題（テーマ）：作者が伝えたかった思い

結びの少し前に、客観的な風景描写から一転して、作者の主観（思い）が強く表れる一行があるよ。



もしも 100 年が この一瞬の間にたったとしても 何の不思議もないだろう

作者は、この雄大な大自然の景色を見ていると、瞬（まばた）きするほどの「一瞬」が、人間の「100 年」にも感じられるほど、時間がゆったりと流れているように思えたんだね。

雨は静かに降り続き、馬たちは黙々と草をたべている。山は煙を上げ、空と境目なくつながっている。

その光景は、まるで永遠に変わらず続いていくように感じられ、深い感動を呼んでいるんだ。

「一瞬」が「100年」に感じられる？

『一瞬』と『100年』から感じる悠久の時間



この詩の主題（テーマ）をまとめるなら、

「大自然の雄大さと、その中にある永遠に続くような悠久（＝果てしなく長い）時間の流れへの感動」

だと考えられるよ。

※三好達治さんの作品は著作権保護期間が満了しているため、このページでは詩の全文を掲載して解説しています。

